

SSKP

つくしんぼの
会報誌

つくつく通信

No.62

「つくしんぼ」はハンディのある子どもたちの放課後活動のスペースです

編集～「フリースペースつくしんぼ」 東京都町田市小川1511 TEL/FAX 042(796)8468

母たちの勉強会

昨年の12月26日に、町田公民館の学習室をお借りして、つくしんぼの母たちの勉強会を開きました。

つくしんぼの職員中井さんの恩師である、元長野大学教授の永野幸雄先生をお招きし、日頃の子育ての悩みに対するアドバイスや、障がいのある子への対応の仕方をお聞きしました。また先生からのメッセージなどもいただきました。

先生は養護学校で教えていらっしゃったこともあり、障がい児の放課後活動についてはお詳しい方です。

素敵なお話をだったので、ここに少しだすが紹介したいと思います。

憲法25条と教育基本法が危ない

- ・今、学校教育法にある『人格の育成』を『人材の育成』に変えようとしている。人材というのは使える人間ということ。障がいのある人を否定するような言葉。
- ・健康というのは、体だけでなく、心も健やかであるということ。
- ・障がいのある子の兄弟姉妹への配慮も大切。両親ががんばっている姿を見て、彼らたちは自ら気がつく。18歳までは子どもだから、可愛がる。お姉ちゃんだから、お兄ちゃんだからと言わない。
- ・『正義や真理がわかる』ということが、賢

くなるということ。

21世紀は地域だ

- ・ハンディのある子を有名人に。周りに迷惑をかけていると考えない。迷子になっておまわりさんにお世話になったときでも「おまわりさんに障がいのある子の対応の仕方を教えてあげたんだ」と思いなさい。町の人の世話になる。それは町の人を教育すること。
- ・地域社会同士の支え合いが大切。「近所で児虐待がわかつたら通報しよう」という最近の風潮には疑問。わかつたら駆けつけて「どうしたの?」と声をかけるのが地域。
- ・どんなに重い障がいのある子でも、家族が困った時に「私が預かる」と言ってもらえる地域の友人を作っていく努力をしよう。
- ・以前いた養護学校では、広範囲から子どもたちが通っていたので、住んでいる地域ごとの『地域PTA』があった。それぞれの地区の情報交換ができ、他地区にある有効な制度などを自分の地区に作るなど参考になった。親の縦割りのつながりもできる。
- ・PTAのPはペアレンツのP、子どものことは母親任せにせず両親



で考える。

- ・なにか問題に気づいたら、気づいた人がやっていく。誰かがやってくれるのでなく、私たちでやる。『お任せ』がいけない。

子どもは子どもの世界

- ・保育園や学童保育は子どもの文化である。
- ・「子どものくせに」「うるさいだまれ」と言わないで。子どもの言うことは、正しいとはかぎらないけれど、まずは聞いてあげる。
- ・命令、禁止の言葉は減らし、「お母さん悲しいわ。困る」と伝える。
- ・学童保育を応援する親の力(財政的)が必要である。

以上、2時間があつという間に過ぎてしまい、参考になるお話しがたくさんありました。

なかでも、「正義や真理がわかる」ということが、賢くなるということ、というお話から、教育の重要さ、教育の究極の目的を教えていただと同時に、子どもだけではなく母達にも「見抜くことができる、鋭い視点を養う」という示唆があったように思いました。

永野先生、ありがとうございました。今後とも、つくしんぼを見守っていてください。



今回のキッズタイムは、ユウジロウ君です。
お母さんにお話していただきました。

「おそと、いこうじえい!!」

暮れも押し迫る寒い日、優次郎が久々に新しい言葉を発した。新しい言葉がでてもそれっきりで、語彙はなかなか増えないし使えない。それも自閉症の一つの特徴である。

その繰り返しの中で、何度も期待し、破れたことか……。でも、新しい言葉はとても嬉しいものだ。寒くていやだったけど、自転車乗りに付き合った。

優次郎は「みんなと一緒に」が苦手だ。そして、好き嫌いがとてもはっきりしていて、ちらっと見て、自分にとって面白いかそうでないかを嗅ぎ分け、いやなことは絶対にしないので、私は困っている。

家の中では困ることもありなく、平和でとても楽しいが、社会に出ると愕然とすることが多い。最近は慣れてきたというか、仕方ないと思うところもあるが、どこに行ってもショックの受けまくりで

あった。健常のお友達の中はさることながら、障がいのあるお友達の中でも「できなさ」が目立つのだ。

そんな子どもでも、とても可愛い。3歳を過ぎるころから可愛さが増してきた。毎日毎日顔を見るたびに「かわいいねえ」と言い続けている。障害という不憫さを見つめていかなければならない辛さもあるが、この世の中にこんなにも可愛いと思える存在があるという幸せもある。将来への不安を抱えながらも私は今日も「ゆうちゃん、かわいいねー」と連発してしまうのであった。

優次郎が小学1年になりたての時、描いた絵、「好きなものは?」
「まま」



つくしんぼの冬の風景

クリスマス会 in シダックス

(12月22日)

今年のつくしんぼクリスマス会は、カラオケBOXで有名なシダックスで行われました。いつもお世話になっている絵画造形の先生、音楽の先生方、お話し会のお母さま、ボランティアの皆さんもふくめこ、31人で楽しめました。

これだけ大勢ですから、BOXには入りきらないので、お店のロビーをパーティ会場にしていただきました。

つくしんぼの日常を題材にした『つくしんぼクイズ』、マジックショー、子ども達のハンドベル演奏、お母さんたちのハモネづコーラス等、盛りだくさんな内容でした。

もちろん、最後にサンタさんも登場しました。みんなよがったね。



おもちつき by 餅つき機

(1月6日)

つくしんぼのおもちつきは、機械でつくるのが慣習です。うすと杵でつくるのも楽しいのですが、もちつき機はおもしろい!!

炊き上がった餅米が回され、搖すられ、こねこねこねされて約10分。おいしいおもちの出来上がりです。

この日はきなこもちがなせか好評を博していました。



「今度はいったい何をやろうか…。」

月に一度、楽しくもあり頭を悩ませる一日がやってきます。高尾先生からお声をかけられ毎週火曜日の造形教室をお手伝いするようになって、そのうち4週目をまかせていただいて早2年。仕事の都合でいけなくなる時もしばしば。それでも君たちつくしんぼの子ども達はよくつきあってくれています。

時には全然のってくれず、一人で額に汗

かきながらやってたり、おもいもよらないことで楽しんでもらえたり。毎回毎回自分の未熟さを思い知らされ、僕のほうが君たちのことを「先生」と呼びたい日々を送っています。

人は本来自分の思ったことをカタチにしたいという表現の欲求があります。粘土を丸めるのも、チラシになぐり描きするのも、自分を表現する欲求を満たしたいから、人は誰でも生まれながらに芸術家です。表現に「良い」も「悪い」もありません。絶対的に評価がないとすれば、教えることは何もないわけで、僕と君たちはいつも同じところにいるんだと思っています。

もっともっと自由で楽しくて、なにものにもかえがたいほどの時間を君たちとすごすことができたら、どんなに幸福でしょうか。(今でも十分そうなのですが)

まだまだ未熟な僕ですが、これからも末永くよろしくね。



つくつく通信の裏表紙



つくしんぽの造形の日にお世話になっている林先生のお宅にて、『おもちゃのアトリエ みんなのそら』が12月にオープンしました。

『みんなのそら』では「地域のみんなで子育て、地域のみんなと育ち合い」を目的とした非営利の活動を行なっています。(NPO法人として申請予定)

乳幼児の子どもと家族が、自由におもちゃで遊べる空間です。室内

には、日本グッズトイに選ばれたおもちゃを中心約100点がそろっているとのことです。



活動は土曜と日曜の午前10時～午後4時半。興味のある方は、ぜひご連絡を!!

(12月～1月)

つくしんぽをささえる会 ご入会・ご更新のお願い

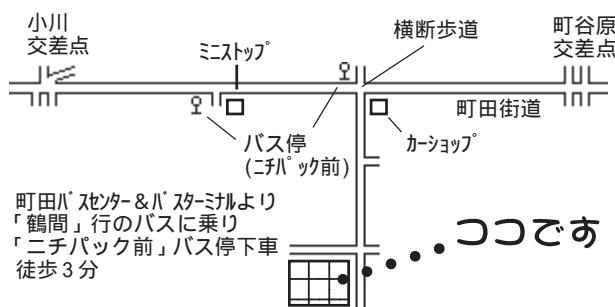
フリースペースつくしんぽはハンディをもつ子ども達の放課後活動の場として活動しています。96年5月に開所し、現在は補助金を頂いていますが、運営面で苦しいのが現状です。

よろしかったら「ささえる会」の会員になって頂けませんでしょうか。年会費2000円(一口)をお願いしております。

会員の皆様には、この会報誌「つくつく通信」を送付させて頂きます。よろしくお願ひできましたら幸いです。

郵便振替口座番号
00120-7-168283
加入者口座名称
フリースペースつくしんぽ

♪つくしんぽの地図♪



田園都市線「すずかけ台」駅からだと徒歩15分弱です